

ボ イ ス



踊り場

「今、日本は高視認性安全服普及の踊り場的な時期。大阪万博のある25年には欧州並みに広げたい」と言うのは、日本高視認性安全服研究所（JAVISIA）の服部勝治所長。蛍光色の生地と、再帰反射材などを組み合わせた高視認性安全服。欧米では作業

現場での着用が一般的だが、「欧州で高視認性安全服に関する規格EN471が発効されたのは94年。13年にISO（国際標準化機構）20471として国際基準が発効し、20年かかって浸透した。日本では15年にJIS（日本工業規格）T8127が制定されてから、まだ4年。中国や韓国も五輪を機に導入が加速したので、東京五輪や大阪万博で採用を働きかけ、積極的に普及を進めたい」と話す。高速道路など路上作業者に加え、「交通事故防止のため子供や高齢者、朝や夜も移動する介護従事者にも広げたい」考えだ。